

# 地域住民が主体となって運行するバスの運営団体との 意見交換会の開催結果について

資料 4

## ■開催日時・場所

日時：平成31年2月8日（金）午後4時～5時30分

場所：瀬戸市役所北庁舎5階 全員協議会室

## ■参加者

・有識者

伊豆原浩二先生（愛知工業大学工学部土木工学科客員教授）

磯部友彦先生（中部大学工学部都市建設工学科教授）

・住民団体

菱野団地コミュニティ交通運行協議会 2名

下品野地区沿線協議会 1名

品野台地区沿線協議会 1名

西陵地区沿線協議会 1名

・運輸局・愛知運輸支局（主催）・瀬戸市



## ■開催趣旨

地域住民の足を確保するために、自治体が主体となってコミュニティバスが運行されていますが、コミュニティバスの中には、運行ルートや運賃、ダイヤ、利用促進策を地域住民が運営団体（運行協議会等）を立ち上げて、主体的に取り組みを行っているケースもあります。

このような運行を行っている運営団体の課題として、組織の立ち上げから協議会を引っ張ってきたキーパーソン（初期メンバー）の高齢化に伴う後継者の成り手不在やモチベーションの維持、また、利用者の伸び悩み等の問題があることが聞こえてきます。

運輸局・運輸支局においては、日頃こうした住民団体の方々との接点がないため、瀬戸市内の各地域で活動されている住民団体の方々とのポイントを中心に意見交換を行い、運行に対する課題の実情や要望事項などを共有し、今後の行政施策への反映などを目的として意見交換会を開催しました。

## ■意見交換のポイントと主な意見

### ○団体の立ち上げ時にどのようなメンバーを集めたか

- ・自治会経験者や組長等を主体に立ち上げた。
- ・JRの撤退時にバスがなくなるのではという不安に対し何とかしなければという思いをもった人たちを集めた。
- ・市の働きかけにより活動を始める団体が多く、市の役割は大きい。

### ○利用者を増やすための苦勞

- ・小学生や老人クラブを対象としたバスの乗り方教室や、バス広報紙の発行、バス停の維持管理等の利用促進活動を行っている。
- ・菱野団地住民バスの利用者は右肩上がり。原因は口コミや地元運転手のコミュニケーションが考えられる。

### ○団体を継続するための課題 (団体の世代交代について、取り組みの熱意の維持など)

- ・下品野地区独自の取り組みとして、自治会役員・町内会長のOBで組織する団体（育栄会）があり、その中から新たにメンバーとして参加してもらっている。
- ・団体の継続（世代交代）については、はっきりと決めたルールがない団体が多い。

### ○男性高齢者を乗せるための方策

- ・男性は女性に比べ運転手に聞く等のコミュニケーションが苦手な人が多いことも男性利用者が少ない原因。
- ・運転手の行先確認により、コミュニケーションが生まれる。また、バスで行ける目的地の選定も大事。
- ・バスの待合環境が大事。商業施設に乗り入れしたが、待合室も良い環境であり、男性同士でも利用する。